

博士論文審査及び学力の確認の結果

審査委員（主査） 二木 博史



学位申請者 ダムリンジャブ (Damrinjab, 旦布尔加甫)

論文名 モンゴル英雄民話研究

【審査結果】

本学位請求論文は、モンゴルの英雄民話のジャンル上の特質をあきらかにし、詳細な分類をおこない、さらに民話に反映された神話的思考、儀礼、信仰を、フィールドワークでえた資料をもとに分析した労作である。とりわけ、英雄叙事詩と英雄民話の相互関係、英雄民話と魔法民話の相違点を検討し、英雄民話が独立したジャンルを構成することを説得的に示めたこと、複合的プロットの英雄民話の構造を体系的に記述したこと、民間信仰と英雄民話の関係を整理したことは、モンゴルのフォークロア研究に重要な寄与をおこなったものとみとめられる。

テーマの重要性、収集・利用された一次資料の質、先行研究に対する理解、総合的な分析能力、結論の独自性のいずれにおいても、本論文は卓越している。

よって審査委員会は、論文審査と学力の確認の結果にもとづき、全員一致で、学位申請者に対し博士（学術）の学位を授与するのが適当だと、判断した。

審査には、本学の教授二木博史(主査)、川口健一教授、岡田和行教授のほか、学外からリンチンドルジ（仁钦道尔吉）氏（中国社会科学院教授）、藤井麻湖氏（愛知淑徳大学専任講師）が参加した。

【論文の概要】

本論文は、本文（192 ページ）、参考文献、付録等から構成される。全 230 ページ。

本文の構成は、以下のものである。

序論

第1章 モンゴルにおける英雄民話、英雄叙事詩、その他の民話の相互関係

1. 英雄民話、神話、伝説、魔法民話の相違点
2. 英雄民話と英雄叙事詩の相違点
3. 英雄民話の筋の分類

第2章 モンゴル英雄民話の文化的基盤

1. 英雄民話における神話的思考の諸概念
2. 英雄民話に反映された古代儀礼の諸概念
3. 英雄民話に反映された社会状況

第3章 モンゴル英雄民話における太古の信仰

1. 英雄民話に反映された岩石崇拝
2. 英雄民話における山岳崇拝
3. 英雄民話と火の崇拝
4. 英雄民話に反映された女性器崇拝
5. 英雄民話に反映された靈魂概念

結論

序論では、本研究の目的、重要性、先行研究、研究方法、使用する資料、論文の構成についてのべている。先行研究ではおもに、P. ホルロー、D. ツェレンソドノムらモンゴルの研究者やリンチンドルジなど中国の学者によるモンゴル民話の分類が検討されているほか、ロシア、ソ連の研究者の貢献も強調されている。また本論文で使用される約 300 篇の英雄民話のうち、250 篇がオイラト・モンゴルのものであることが説明されている。

第 1 章では、モンゴルの英雄民話と神話、伝説、魔法民話、英雄叙事詩との相互関係、共通点と相違点がのべられている。

英雄民話は、英雄叙事詩のように韻文ではなく、散文でかたられ、魔法民話とはことなり、援助者の魔力や魔法によってではなく、主人公自身の超人的な力と勇気で目的を達成する。英雄叙事詩は、「アルタイ賛歌」のようなプロローグを有すること、かたられる季節、時間が厳密にきめられていること、特定の行動・儀礼とむすびについていること、トブショールなどの伴奏楽器をともなうことなどの特徴をもつが、英雄民話には、これらの条件は一切ない。

単純なプロットをもつ英雄民話は 4 種類、すなわち、A 婚姻のテーマをもつもの、B 戦いのテーマをもつもの、C 兄弟（義兄弟）になるテーマをもつもの、D 兄弟、親族のあいだの復讐のテーマをもつものに分類される。これらの基本形を土台に、嫁取りしてさらにもう一度嫁とりをする、嫁取りしてから戦う、戦いのあと、もう一度戦うなど、計 21 種類の複合的プロットの英雄民話ができあがった。単純なプロットをもつものは、時間の経過にしたがい、複合的プロットをもつものに変化したが、一部のものは、単純な構造を維持した。

第 2 章では、モンゴル英雄民話に反映された神話的思考、古代儀礼、社会状況が考察されている。主人公が木や花から誕生するはなし、体から光や虹がでていはなしをモンゴルの神話と関連づけて説明している。また英雄民話にしばしばあらわれる“脛骨のシンボリズム”、すなわち新郎と新婦が「黄色い太陽に礼拝し脛骨をにぎる」儀礼や、義兄弟になるときの諸儀式が、ふるい文化層に起源を有することを、考古学や民俗学のデータを援用して論じている。さらに右側をたつとぶかんがえ方が、英雄民話でくりかえされていることの意味を、検討している。英雄民話でえがかれる戦争が、氏族社会時代の集団間のあらい、復讐、同盟の反映だという意見ものべられている。

第3章は、古代のモンゴル人の信仰の諸形式、すなわち岩石崇拝、山岳信仰、火の崇拝、女性器崇拝、靈魂崇拝が、英雄民話の内容といかにむすびつき、構造上の特徴をつくりだしているかについて論じている。岩石崇拝を例にとると、主人公や敵が岩石からうまれるというはなしは、英雄民話だけではなく、英雄叙事詩にもしばしばみられる。怪物マンガスをころしたあと、その死体のうえにかならず黒い巨岩をのせる。英雄が岩をたべて生き返ったりするはなしもよく登場する。これらのモチーフに共通するのは、岩石を「すべてをかなえる魔法の力をもつ、もっとも堅固なもの」とみなすことであり、これはふるい時代に起源をもつ世界観が民話に反映したものと解釈しうる。

結論では、各章の内容を総括し、今後の研究課題についてのべている。

参考文献には、著者が収集し、本論文で使用した英雄民話のリスト、語り手（21名）のプロフィールもふくまれている。

付録として、著者が新疆で採集した英雄叙事詩のリストと語り手（52名）のプロフィールがふさされている。

【論文の評価】

本論文では、著者が1980年代後半、90年代前半の約10年間に、中国・新疆ウイグル自治区のオイラト系モンゴル人の居住する地域で計22ヶ月、フィールドワークをおこない直接採集した100篇ちかい英雄民話を使用されており、資料の面で、独自性がたかい。みずから必要な資料をあつめ、それらにもとづき研究をおこなうという方法を実践しているモンゴル・フォークロア研究者は、きわめて少数であること、ダムリンジャブ氏が民話等の聞きとりをおこなった語り手のおおくがすでに世を去っていることを考慮すると、同氏の研究スタイルが、いかに貴重であるかが、理解される。審査委員のおおくから、本論文が長年の準備期間をへて完成した労作だという評価がだされた。

第1章については、これまで英雄叙事詩あるいは魔法民話に分類されていた民話群を、形式、内容、語りの時期、儀礼との関係、伴奏楽器の有無などの基準にもとづき、明確に独立したジャンルだということを証明したことは、独自の研究成果としてたかく評価しうる。また具体的な事例に言及しつつ、英雄民話のプロットを精密に研究し、分類、記述した点も重要である。この作業によって、英雄民話の形態的な特徴がより鮮明になっている。

第2章は、英雄民話につかわれているモチーフが、神話、婚姻儀礼などと密接な関係を有していることが、具体的にしめされており、モンゴルの神話研究、儀礼研究、あるいは象徴表現の分析のために有益な材料を提供するという意味で、資料的価値がたかい。

第3章では、仏教あるいはシャマニズムといった、固定的な枠組みをもちいて記述するのではなく、「死生観」の見地から整理している点が、注目される。このような記述方法により、説明がイデオロギー的になる危険性を回避しえており、しかもシンクレティズム的な世界観の分析が容易になっている。

本論文はモンゴルの英雄民話に関する最初の本格的研究だが、充分、今後のこの分野の

研究の基礎たりうる。

審査委員からだされた主要な批判、質問は、以下のものである。

- (1) 英雄民話がプロットによって 25 のタイプにわけられているが、一部のタイプは、具体例がすくなく、独自のタイプとしてたてるのが可能かどうか、ただちに判断するのがむずかしい。
- (2) 研究者によるジャンル区分と、実際に作品がかたられる地域の人々による分類の関係が明確にのべられていない。
- (3) 中国、モンゴル、ロシアにおける先行研究については十分に消化して使用しているが、他の欧米や日本の研究については、研究書、研究論文に対する言及はあるものの、有効につかっていない場合がある。
- (4) 英雄民話のなかにあらわれるさまざまなモチーフについて、その象徴的意味の説明が、かならずしも十分ではない。
- (5) 地域、エスニック集団によって、英雄民話にどのような差異が生じているかについての記述がすくない。

これらの批判、質問に対するダムリンジャブ氏の答弁は、具体的かつ体系的で、みずからの研究の到達点と今後の展望を十分に自覚していることが、確認された。

論文の内容と学力の確認の結果を総合的に判断して、審査委員会は全員一致で、上記の結論に達した。